授業探訪

総合系科目・多彩な学び

2022 年度「カーボンニュートラル人材育成講座」

法学部教授　河村 賢治
立教サービスラーニングセンター兼任講師　村上 千里

1．はじめに

2022 年 2 月、本学は、立教大学カーボンニュートラル宣言（以下参照）を発出した。

立教大学カーボンニュートラル宣言

近年、極端な熱波、干ばつ、熱帯低気圧の強大化、豪雨などの異常気象が、世界中の人々の生活に深刻な被害をもたらし、生態系にも大きな影響を与えています。これらの異常気象には地球温暖化が関係していると考えられており、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 6 次評価報告書第 1 作業部会報告書（自然科学的根拠）では、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことに疑う余地はないとされています。私たちの命の基盤である地球を、持続可能な形で次世代へつなげていくために、私たちはいま何をすべきかが問われています。

立教大学は、「普遍的真理を探究し、この世界や社会のために働く者を生み育てる」というミッションのもと、地球温暖化という全世界共通の課題に取り組むべく、ここに立教大学カーボンニュートラル宣言を発出し、以下の取り組みを進めてまいります。

1．2030 年までに本学キャンパスにおける温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指し、立教大学カーボンニュートラル・ロードマップを策定のうえ実行します。
2．地域の方々をはじめとする様々な関係者と協力し、社会におけるカーボンニュートラルの取り組みに貢献します。
3．地球環境の現状を理解し、生きる条件のきびしい他者存在に思いを馳せつつ、カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会を構築する力のある学生を育てます。

2022 年 2 月 8 日 立教大学総長　西原廉太

立教大学カーボンニュートラル宣言の発出と同時に、「キャンパスのカーボンニュートラル」「カーボンニュートラル人材育成」「カーボンニュートラル最先端研究」を進めていくための３つのロードマップも公表された（詳細は https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/carbon-neutral/）。このうち「カーボンニュートラル人材育成」では、「3. カーボンニュートラル人材育成講座の展開（学部）」として、「地球環境の現状をファクトに基づき理解し、企業や組織等においてカーボンニュートラルを実現する施策を提案・実行できる人材を地域等と連携しながら育成する」とされた。これを受けて 2022 年度秋学期に池袋キャンパスで開講されたのが、本稿で紹介する「カーボンニュートラル人材育成講座」である（以下カーボンニュートラルを「CN」という）。

2.「CN 人材育成講座」の内容

「CN 人材育成講座」は、立教サービスラーニング科目の一つとして設置されている。これは、授業を通じて気候変動や CN に関する知識を学んでもらうだけでなく、実際にそうした知識を活用しながら、リアルな課題に取り組んでもらうこと、そして、そうした経験を通じて、他者と協力しながら解決策を考え実行していく力を育んでもらうことを重視したためである。

そこで、本講座では、受講生に取り組んでもらう課題を初回に示し、第 2 回から第 10 回までは、CN の第一線で活躍しているさまざまな立場の方をゲスト・スピーカーとして招き、それぞれの現場における専門知識や取り組み内容、乗り越えるべき課題などをお話しいただくこととした。また、うち 2 回は豊島区清掃工場と本学池袋キャンパスの取り組みの見学を組み込んだ。そして講座の終盤には小グループに分かれ課題に対する提案を作り、豊島区や立教学院の職員を前に発表するという構成とした。

課題の内容は関係者とも相談し、（1）本学で CN を実現するための具体的なアクションもしくは学生版立教大学環境レポートの作成、（2）豊島区で CN を実現するためのハード面・ソフト面の取り組みとその取り組みを広めていくための手段、のいずれかから受講生に選んでもらうこととした。

3. 授業の様子

受講生は 31 名でスタート、法学部と文学部で半数、学年は 2 年次生が過半を占めた。初期段階でのアンケートの結果、環境問題や気候変動問題への関心はやや強い傾向にあるが、自ら積極的に情報を得ようとしている者は半数に届かず、自分一人でできる行動は 6 割が何かしら行ってはいるものの、グループで活動を行っている者は 1 割の 3 名という顔ぶれであることが分かった。

初回はグループワークの下地作りとして、どんなバックグラウンドの学生がいるか

表：授業計画

①	9/23	**授業概要の説明と課題（本学の課題と豊島区の課題）の提示**
②	9/30	**気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書と気候変動のリスク** 国立環境研究所 地球システム領域上級主席研究員　江守正多氏
③	10/7	**CN に関する世界と日本の取り組み** 環境省 環境金融推進室　水野紗也氏
④	10/14	**CN に関する地方公共団体の取り組み：2050 としまカーボンニュートラル戦略** 豊島区 環境政策課環境計画グループ　石井聡美氏
⑤	10/21	**豊島区の課題に関する施設等の見学（豊島清掃工場）** 豊島清掃工場および東京 23 区清掃一部事務組合の皆さま
⑥	10/28	**本学の課題に関する施設等の見学（池袋キャンパス）** 立教学院 総務部施設課　餅田忠氏
⑦	11/11	**CN を進める上で必要となる専門知識①（CO2 排出量の算定方法、省エネ・再エネ等）** 環境省 地球温暖化対策課脱炭素ビジネス推進室　金澤晃汰氏
⑧	11/25	**CN を進める上で必要となる専門知識②（カーボンオフセット、資金調達の手法、情報開示等）** 環境省 地球温暖化対策課脱炭素ビジネス推進室　金澤晃汰氏
⑨	12/2	**CN に関する企業の取り組み** 株式会社丸井グループサステナビリティ部の皆さま
⑩	12/9	**CN に関する他大学の取り組み** 立命館大学の皆さま（理工学部　佐藤圭輔氏、財務部管財課、学生の皆さま）、一般社団法人インパクトラボ　上田隼也氏
⑪	12/16	**課題に関するグループワーク（提案検討）**
⑫	12/23	**課題に関するグループワーク（提案検討、プレゼンテーションの準備）**
⑬	1/6	**豊島区の課題に対する受講生からのプレゼンテーション** プレゼンテーションに対するコメント：豊島区　石井聡美氏
⑭	1/20	**本学の課題に対する受講生からのプレゼンテーション** プレゼンテーションに対するコメント：立教学院　餅田忠氏

を共有できるアクティビティを組み込み、オリエンテーションの後、4 人一組で自己紹介と 2 つの課題を聞いての感想を話し合ってもらった。リアクションペーパーからは、ゲスト・スピーカーやグループワークへの期待が高いことがうかがえた。また、学部を超えたメンバーでの話し合いを新鮮に感じたという感想も見られた。

ゲスト・スピーカーによる講義はいずれも有益で興味深いものであった。専門分野に関する解説はもちろんのこと、ゲスト・スピーカーの経験談（国際会議で「気候変動で深刻な被害を受ける人たちは CO2 をほとんど出していない。皆さん本当に分かっていますか？」と真顔で問われ言葉がなかったことなど）も受講生の心を揺さぶったようで

あった。また、「ある上場企業の CO2 削減計画を立ててみよう」「渋谷に新たに出店する店舗のコンセプトを考えてください」といった、学生が関心を持ちやすいテーマでグループワークを実施していただくこともあった。第 10 回目の授業では、学生時代に学生主体のサステナビリティ・プロジェクトを立ち上げ、大学と地域の連携事業をコーディネートする機能を果たす組織を起業した若者と、現在進行形で行われているプロジェクトを担っている大学 2 年次生のプレゼンテーションが行われた。これらは受講生に大きなインパクトを与えたようである。

4．豊島区および大学への提案

課題発表のためのグループワークは実質 2 コマしか時間がとれず、提案をまとめ、プレゼン準備を行うには短すぎたことは設計上の反省点である。実際、年明けすぐに発表を行った学生たちは、年末年始でそれぞれにオンライン会議を設定し、直前まで調整を行いながら発表準備を進めてくれた。本原稿の締め切り上、ここでは 1 月 6 日に行われた豊島区に対する提案について、簡単に紹介する。

いずれの提案も、短時間にもかかわらず、先行事例や現状調査を踏まえたものとなっ

各グループからの提案	提案概要
第 1 グループ 豊島 CN スタンプラリー	区民や企業の無関心という CN 推進における課題と、駅から街に人が流れない（駅袋）という地域経済の課題を結びつけ、同時解決する企画としてスタンプラリーを提案。アートやサブカル発信地、飲食店などを CN 拠点化し、クイズとスタンプでつないで活性化を狙う。
第 2 グループ 公共交通でグリーンな池袋「パーク＆ライド！」	池袋に自家用車乗り入れ禁止エリアを設定し、エリア内の移動を IKEBUS や電動キックボードのシェアなどでサポートする仕組みを提案。実現に向け課題となる駐車場不足をどう解消するかを、既存の調査データなども参照し、立体駐車場と地下駐車場建設の 2 案を提示。
第 3 グループ 立教祭で「team2050 ！×豊島区フリーマーケットイベント」開催	学生の関心が高い衣服の環境負荷に着目し、サステナブルファッションの周知と実践を進める学生主体のイベントを提案。大学に古着回収 BOX を設置し、集まった衣服を立教祭のフリマで販売する。広報は区と学生が連携して行い、他大学とも連携しインパクトを拡大する。
第 4 グループ 評価シートとイケコ（コミュニティ通貨）	CN は一人では何をすればよいか、どれだけ効果があるのか分からない、という課題の解決を目指し提案。個別アクションの 1 人 1 日あたりの CO2 削減効果を数値で示す評価シートを作成、既にあるコミュニティ通貨「まちのコイン（イケコ）」とつなぎ、区の協力を得てユーザーと認知度を拡大する。

ており、講義の成果も少なからず表れていたのではと考える。一方、驚いたのは第 3 グループによる独自調査だ。Google フォームを使い、Instagram で呼びかけ、たった 2 日間で 1500 件の学生回答を得て、サステナブルファッションの認知度、着なくなった服の処分方法やフリマなどでの販売を利用しない理由、古着回収 BOX の利用意向などを把握していた。

豊島区の石井氏からは、「いずれの提案も現状分析を踏まえ、ターゲットを絞って考えられている点が素晴らしい。あまりお金をかけなくても実現可能な企画は、行政としても取り組みやすい。担当部署とも情報を共有していきたい」とのコメントをいただいた。また、「単に CN の視点だけでなく、中小企業支援や地域活性化の視点を絡めているところは勉強になった」と評価いただいた。

提案によっては、学生である自分たちの役割がまだ話し合われていないものもあったため、担当教員としてはそのあたりを促しつつ、今回の成果を単なるアイデアで終わらせず、少しでも地域の中で形にし、CN を進めるエンジンに育てていけるよう支援していきたいと考えている。欲を言えば、これらの提案を連携させ、相乗効果を生み出す事業に、学生たちが発展させていけるような後押しをしていきたいものである。

5．次年度に向けて

本年度の経験を踏まえ、次年度の「CN 人材育成講座」では、いくつかの修正を行おうと考えている。例えば、新座キャンパスの学生たちも参加しやすくするため、池袋キャンパスの教室と新座キャンパスの教室をオンラインでつなぎ、同時に授業を行うこと。また、課題発表のためのグループワークの時間を増やすとともに、最終発表までの間における受講生・教員間のやりとりも一層充実させるつもりである。「地球環境の現状をファクトに基づき理解し、企業や組織等において CN を実現する施策を提案・実行できる人材を地域等と連携しながら育成する」という目的が達成できるよう、今後も関係者と協力しながら、より良い授業を展開していければと思う。

かわむら　けんじ
むらかみ　ちさと